

聖風

せいふう

2017年9月号

●発行責任者/院長 森下剛久 ●編集/企画広報室 ●編集協力/プロジェクトリンク事務局

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
TEL 052-832-1181
<http://www.seirei-hospital.org/>

02



認知症看護認定看護師を中心に 認知症チームを発足。 認知症ケアの質の向上をめざします。

全国的に高齢化が進むなか、2025年には高齢者の5人に1人が認知症といわれています。当院にも多くの認知症を抱える高齢患者さんが入院されており、認知機能の低下によって必要な治療が受けられない、安全のため身体拘束が行われるといったケースも見られます。認知症のある方は同じことを何度も聞いたり、同じ動作を繰り返すなど、一見不可解と思われる行動をとることがあります。しかし多くの場合、これらの行動には一つひとつ意味があ

り、そこにはその人の生活史が影響します。私は、不可解と思われる行動の意味を考え、想いに寄り添うことが認知症ケアのはじまりではないかと考えています。

当院では、患者さん一人ひとりの症状に合わせたケアの提供、および、認知症ケアの質向上を目的に、看護師を中心とした認知症ケアチームと、医師やコメディカルを含む認知症サポートチームが平成29年9月から活動を開始します。チームが、毎週患者さんのもと

へ足を運び、患者さんに必要なケアを考えることで、限られた環境の中でその人らしく生活できるように支援していきます。また今後は、認知症カフェの開催なども予定しており、地域における当院の役割として、認知症の方やそのご家族の力になれるよう努めていきたいと思っています。



認知症看護
認定看護師
細井 裕加里



院長 メッセージ

Message of the
hospital
superintendent

平成29年9月
病院長 森下剛久

聖霊病院の医師と看護師がめざすもの。

医学の急速な進歩は医師・看護師教育の現場に専門性志向や高度医療技術偏重をもたらし、急激に進む高齢化社会の医療に求められる総合的な知識や能力を持つ医療者が不足しています。聖霊病院がめざすものは「病院診

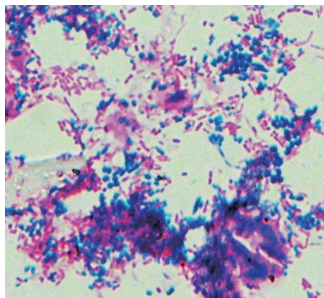
療医」であり、病院診療医と協働できる看護師です。聖霊病院には大部分の診療科が揃っています。医師は互いの専門領域により補完されて総合的な診療能力を高めていきます。看護師は患者さんを教師としてケアを深めます。

病気の基礎知識

症状がわかりづらい高齢者の肺炎。
飲み込む機能の衰えにより、
口の中の細菌が肺で炎症を起こします。

高齢化に伴い増加を続ける 〈誤嚥性肺炎〉。

肺炎とは、細菌やウイルスに感染することにより、肺が炎症を起こす病気。日本人の死亡原因では第3位で、高齢化に伴い特に増えているのが誤嚥性（ごえんせい）肺炎です。加齢により喉（のど）の反射機能が衰えると、本来、食道に送られるはずの食べ物や唾液などが、誤って気管に入り込みます。これを誤嚥といいます。口の中には菌が多く住みついているので、菌を含んだ唾液が肺に入り感染すると肺炎を起こします。誤嚥は、食事中に起こるとは限りません。高齢者では、日常的に就寝中の唾液のたれ込みによる誤嚥が起こっています。



口の中には菌であふれている
(赤・青色が口腔内の細菌)

知らず知らずのうちに起きる 肺炎にご用心。



高齢者の場合、肺炎を起こしても、発熱、咳などの典型的な症状が現れにくいといわれています。最近、喉の辺りがゴロゴロと鳴っている、食欲がない日が続く、何となくボンヤリしている、寝たきりの人で意識レベルが下がっている…これらの症状が見られたら、誤嚥性肺炎の可能性がります。なかでも、唾液のたれ込みによる誤嚥には、注意が必要です。身体の成分でもある唾液は、誤嚥してもむせることはありません。そのため、知らず知らずのうちに肺炎を起こし、気づいたら悪化していたということも少なくありません。

診療部長メッセージ

身体も心も
総合的に診る医療を
実践しています。



第一内科部長
感染対策室長
石原政光

当院では、肺炎という一つの病気だけでなく、患者さんの状態をとらえるのではなく、基礎疾患や心の状態も踏まえて、全身を診ることを大切にしています。診療には、「口腔ケアチーム」「感染対策チーム」「抗生物質適正使用チーム」の各チームも入ります。医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション、検査技師など多職種からなるチームが連携することで、患者さんを全人的にサポートす

る体制が整っているのが当院の強みです。

脳梗塞、寝たきり、意識レベルが不安定、胃瘻が入っているといった患者さんは、誤嚥性肺炎を起こしやすいといわれています。咳、高熱といった症状が顕著に現れないため、気づきにくいのですが、ご家族など周囲の人が「いつもと違う」と感じたときは、すぐに医師の診察を受けることをおすすめします。

治療の 基礎知識

細菌を絞り込み、抗生剤を選択。
口腔ケアや、飲み込む機能の
リハビリテーションが大切です。

確実な投薬治療と、 複合疾患への対応。

誤嚥性肺炎の治療には、一般的に抗生剤が用いられます。抗生剤は原因となる菌の種類により、効果が異なるため、菌を特定することが重要です。それには日数がかかるため、治療前に痰(たん)を顕微鏡で検査し、原因菌となっている菌の種類をある程度絞り込んだ上で、治療薬を選択します。加えて、高齢者の場合、心臓や腎機能の働きが低下したり、物が飲み込みにくいなど、さまざまな他の疾患を抱えていることが多く、肺炎の治療とともに、それらの疾患の治療にも正しく対応することが必要です。



口内環境を整える。 安全に食べる機能を高める。



症状を改善する治療と同時に大切なのが、再発しないための予防です。まずは、口腔ケアで、肺炎を起こしにくい口内環境を整えます。歯垢を取る、

義歯を清潔にするなど、口の中を衛生的に保つことで、肺炎の原因となる菌自体を減らすことができます。また近年では、口腔ケアにより、喉の反射機能も改善できることがわかってきています。さらに、患者さんの状態に合わせて、嚥下(えんげ)リハビリテーションを行います。口から安全に食べられる、飲み込めるようにするリハビリテーションを行い、誤嚥性肺炎を繰り返さないようにします。

さまざまな専門職が 患者さんの回復を支援します。



リハビリテーション
技術科
言語聴覚士
高木建吾

Talk
01

誤嚥性肺炎の場合、寝たきりを防ぐために早期離床をめざした身体的なアプローチと、嚥下機能を保つためのリハビリテーションが重要です。少量でも食べられる場合は、できるだけ安全なかたちで、嚥下回数を確保し機能を保てるようにします。患者さんの気持ちを第一に考え、多職種が密に連携をして支援しています。

口腔ケアを通じて、 全身の健康を見守ります。



歯科口腔外科
歯科衛生士
井上美咲

Talk
02

口内環境と全身の健康には、密接な関わりがあります。口の中を清潔にすることで、歯や口の病気を予防するのはもちろん、口腔機能の改善により誤嚥性肺炎を防ぐなど、全身的な健康増進にも繋がります。口腔ケアを通して、患者さんの全身状態を改善できるように、丁寧な口腔ケアと指導を心がけています。

病院からのお知らせ

01

第9回 愛知県地域医療連携実務者協議会・講演会



テーマ 平成30年 診療報酬改定を探る

日時 11月18日(土) 10時~11時30分

場所 ミッドランドホール
(ミッドランドスクエア
オフィスタワー5階)

会費 無料

本件についてのお問い合わせ先

聖霊病院 地域医療連携センター

聖霊病院は今年も愛知県地域医療連携実務者協議会と共催して、講演会を開催いたします。来年春の診療報酬改定についての講演を広く地域の医療施設の実務者と情報を共有すべく11月18日(土)日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会と同日に名古屋駅前ミッドランドホールにて午前10時から開催いたします。参加申し込みは所定のFAX用紙、または日本医療マネジメント学会ホームページからご応募ください。

02

職員の働きやすい環境を提供するためロザリオ保育所を整備、平成30年4月新設移転予定

当院では現在、生後8週目から3歳未満の職員の子どもの対象に保育を行っています。より安心して職員が働くことができる保育環境を整えるために、場所を院内に移し「企業主導型保育事業」整備費を使用して新設工事を行い、平成30年2月完成予定です。平成30年4月からは保育対象が就学前(5歳児)までになり、地域住民のお子さんも受け入れることができるようになります。詳細につきましては、今後ホームページなどでお知らせいたします。



本件についてのお問い合わせ先 聖霊病院 管理課

03

イベント開催のお知らせ

滝川学区親子ふれあいフェスタ2017

聖霊病院のブースを出展します。内容は、〈親子で正しいスキンケアを学ぶ〉などです。

日時 10月15日(日) 10時~15時

場所 滝川小学校 校庭等(雨天時、同体育館・駐車場等)

紅葉まつり

興正寺といりなか会場を人力車で結びます。当院もブース出展予定です。

日時 12月2日(土) 10時~16時

場所 八事山 興正寺、いりなか会場(聖霊病院)

編集後記

6月には九州地方で記録的な豪雨、8月には台風5号が日本列島を縦断。また、9月は日本への台風の上陸が多くなります。備えあれば憂いなし、いつ来るかわからない自然災害に常日頃から準備を整えていくことが必要ですね。今回、特集の肺炎は、特に高齢者は典型的な症状が出にくいいため、発見が遅れ重症化しやすい疾患です。肺炎による死亡率は年齢とともに高く、日頃の生活に留意することが大切です。

企画広報室(加藤・服部)